



Chartered April 11, 1998

# THE Y'S MEN'S CLUB OF ASHIYA

President : Yasuo Ueno Address: 〒659-0074 2-8-304 Hirata-cho, Ashiya, Japan  
 Mail : uenoashiya@kbd.biglobe.ne.jp  
 URL : [http://www.kobeymca.org/kobe\\_ymca/ys/ashiya.html](http://www.kobeymca.org/kobe_ymca/ys/ashiya.html)

## 主 題

国際協会会長 ケンワン・オン(シンガポール)  
 “Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」  
 アジア太平洋地域会長 田上 正(熊本むさしクラブ)  
 “Act now with faith and love” 「信念と愛を持って行動しよう！」  
 西日本区理事 中井真一(奈良クラブ)  
 “Let's enjoy the YYY life together with our friends all over the world!!” 「世界中の仲間と YYY ライフを楽しみましょう !!」  
 六甲部部長 柳 敏晴(神戸西クラブ)  
 「温故知新 Visiting Old, Learning Now!」  
 芦屋クラブ会長 田辺征一  
 「クラブを愛し楽しみ仕えあう」  
 (Love, work for and enjoy the Club, together)

## 今月の聖句

そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を1リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香で一杯になった。弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。「なぜ、その香油を300 デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」ヨハネ福音書12章3～5節

## 4 月第 1 例会

### 芦屋川さくら祭り

と き: 2026年4月5日(日) 8:30~17:00

と ころ: 芦屋川東堤 テント番号 20

集 合: 8:00 20番テント前

チヂミ 500円  
 綿菓子 400円  
 飲み物 200円



☆ 芦屋みどり福祉作業所と共同参加です  
 協力し合って楽しみましょう!

☆ 4月の誕生日 島田 恒・福原吉孝(ワイズ)

☆ ご苦労様会 焼き鳥「まさや」 18:00~

会 長 田辺征一  
 直前会長 柏原佳子  
 副 会 長 福原吉孝  
 書 記 柏原佳子  
 会 計 桑野友子  
 監 事 上野恭男  
 担当主事 井島裕介  
 六甲部地域奉仕・環境事業主査 福原吉孝

4

Apr.,2026  
 345号

## 「若者のまなざしに期待！」

会長 田辺征一

3月22日、東・西日本区ワイズメンズクラブと YMCA 主催の「Y's SDGs Youth Action 2026」がZoomで公開され、全国の高校・大学生、YMCAのリーダー達22チームの発表・報告がありました。その活動は国内外にまたがり、一昔前とは違った幅広さを感じさせるものでした。

主な発表をあげてみると、国際的には「海外にルーツを持つ子供たちへの支援」「フィリピンの子供たちの笑顔を守る物質支援」「中南米を拠点にした医学部生による医療協力」「ケニアのナイロビ YMCA の協力のもとスラムに住む若者への支援」、国内では「増加する不登校生への支援」「海洋ごみ問題を主に多様な活動の国際ボランティア」「SDGsアイデアコンテストやアートを通して街を元気にする」「街のごみ拾いボランティア交流」「福祉・環境・平和・こども・ボランティアに関心のある人たちの祭り企画」「ジェンダーギャップについて考える会」「過疎地と都市をつなぎ交流をはかる」など。その他、国内5都市の YMCA リーダーたちの活動(不登校生への支援、障害児童支援、ごみ拾い、被爆継承・折鶴再生事業、若者のための止まり木としてのバンド活動、茨木ワイズメンズクラブが行うeスポーツ活動への協力)が報告された。

試行錯誤することなくすぐに正解を求める現代社会にあって、若者たちがより良い社会・人間関係を模索して地道な活動に燃えていることに胸が熱く頼もしく思えたひと時でした。

## 3月第1例会集計

第1例会出席メンバー		例会出席率		BF切手
12名	出席者	12名		累計 gm
名	メネット	名		
名	コメント	合計		
1名	ビジター	17名		ニコニコ
1名	ゲスト	(内広義会員1名)		10,700円
14名	合計	出席率 75%		累計 86,570円

### 3月第1例会報告

日時： 2026年3月 1,800 円日(水) 19:00～21:00

場所： ホテル竹園芦屋

司会： 島田 恒ワイズ (敬称略)

参加者： 田辺征一会長・上野恭男・柏原佳子・桑野友子

島田 恒・堤 清・中島かおり・濱瀬真知子

坂東幸子・福原吉孝・船橋知子(各ワイズ)

井島裕介担当主事

ピンター： 柳敏晴六甲部部长

ゲストスピーカー： 草山美佐子氏

3月18日、定例通り竹園ホテルで例会が開催された。参加はメンバーの他には、ゲストスピーカー草山美佐子様と紹介者の柳敏晴ワイズ六甲部長だけであったが、参加者の関心を惹きつける例会となった。

開会点鐘、斉唱、権メンの感動的なメッセージ、食前感謝、そして会食・歓談が進んだ。

いよいよゲストスピーチ。NPO 法人 1 億人元気運動協会講師である草山さんの講演が始まり、ロコモ予防・認知症予防のための健康体操の働きを親しく語られた。それから実技、椅子に掛けたままの「チェアエクササイズ」が指導された。全員、熱心に「オス！」「よいしょ」などの運動に参加、20 分余りの実践を経て健康が倍増したような気分を味わった(続かなか。。)。



健康には、身体面の他、精神・心理面、社会的側面が重要であることも伝えられた。ワイズ活動に参加することが即それに近づくことが確認された思いであった。



各種報告、ニコニコ、誕生日祝いを経て会長による閉会点鐘をもって豊かな例会が閉ざされた。

島田 恒



椅子に座った状態でオスと右手右足を突き出す



次に左手左足を突き出す



ヨイショで両手を後ろに引き肩甲骨を寄せる

**1 億人元気運動協会** 1992 年会長 竹尾吉枝が日本初、独自の理論で「チェアエクササイズ」を考案し、1999 年より科学的根拠の裏付けの元、高齢者・低体力者の健康・体力づくり運動の開発・普及・指導者育成を教育団体として行っています。

21 世紀を迎え、わが国はすでに世界有数の長寿国家であり、高齢社会から超高齢社会の範疇に分類され、今後高齢者に対する健康指導はますます必要になると考えられるでしょう。しかしながら、高齢者や低体力者のための運動は種類が少なく、また、指導者の数・質ともに十分整備されているとは言えないのがわが国の実情です。

近年、わが国では、余暇時間の増大とともに、公共や民間のスポーツ施設を中心にフィットネスブームが起こったのは事実ですが、実際にはすでに健康な人々がさらに健康を増進させるために利用していることが多いと思われます。すなわち、健康づくりのために運動が必要なのはわかっていますが、運動するための手段がない高齢者や低体力者のほうが圧倒的に多いのが現状だと考えられます。(中略)

主に高齢者やこども等の低体力者をはじめとする一般の人びとに適切な運動を提供することによって、一人ひとりのADL(Activities of Daily Living: 日常生活動作)の自立を促し、QOL(Quality of life: 生活の質、生活の満足感、安定感、幸福感を規定している要因の質的内容)の維持・増進を図り、より住みやすい社会の創造に寄与することを目的として本法人を設立いたしました。

(NPO 法人 1 億人元気運動協会の HP から抜粋)

## 「きらりと輝くアート展」が盛大に終了した

2026年度、六甲部 地域奉仕・環境事業主査として活動する福原です。

今回、六甲部で継続している事業である「きらりと輝くアート展」について報告します。

「きらりと輝くアート展」は、3月27、28、29日の3日間で連日、沢山のお客様を迎えて、盛大の内に終わることが出来た。出品作品はみどり作業所の10作品を初め、100作品にも及ぶ多数の作品が寄せられていた。みどり作業所からは、10作品の貼り絵と絵画が出品されていた。



中でも、色使いが素晴らしく丁寧に作り上げた大きな貼り絵の2作品が、大変目立ち鑑賞に訪れたお客様の注目を浴びていた。

他施設からも立派な素晴らしい絵画、写真、粘土、織物作品等、力作を展示して頂き来場者はその素晴らしい出来栄の作品に魅入っていた。作品数は100作品と原田の森ギャラリーの会場はそれぞれの個性を發揮した作品でいっぱい溢れていた。



来場者は多く会場には賑やかで、愉しく拝見されている様子を見て、開催できたことを大変嬉しく喜びとなった。



さらに宝塚クラブからの提案のあった紙芝居が行われ、六甲部のクラブの面々と一緒に来場したお客様も楽しく拝見した。中身は、面白おかしくダジャレの紙芝居、間違い探し、物語のある紙芝居どれも興味深く、面白おかしく演出されたお喋りもともなって、楽しい時間になっていた。

この会は、六甲部部長以下、各クラブCS実行委員と5回に渡り検討会を行い、進めてきた。各実行委員の努力と各発表施設の尽力により、大変良い会であった。

この「きらりと輝くアート展」は、六甲部がサポートしている大切な継続事業である。毎年、各地区事業施設、入居施設から素晴らしい絵画、写真、粘土、織物作品等、力作を展示して頂き、過去には、川越市に転任された五十嵐ワイズご夫妻を中心に、大変重要な事業として継続開催してきた。

多くの作品が寄せられ、その素晴らしい作品で多くの人々に感動を与え、心豊かにして頂ける良い機会になると信じております。



この取り組みは、「障害のある方に作品の発表を出来る場を提供しよう、少しでも社会と繋がりをもてるお手伝いをしよう」という強い思いで始められたワイズメンズクラブ六甲部の大切な継続事業です。

なお、芦屋クラブのCS担当の上野ワイズには、素晴らしいギャラリーを予約して頂き、柏原ワイズも、書記、会計、メール連絡で活躍して頂いた。堤ワイズには、みどり作業所の作品の搬入、搬出、展示に尽力頂き、受付では、桑野ワイズ、坂東ワイズ、濱瀬ワイズが役割をこなして頂いた。感謝を申し上げます。

六甲部地域奉仕・環境事業主査 福原吉孝

## 六甲部第2回評議会

六甲部第二回評議会が3月14日(土)14:00~16:00 神戸 YMCA チャペルにて開催されました。

定数の確認後、六甲部長の中間報告に続いて、各事業主査の活動報告、各クラブ会長からの報告があった。

地域奉仕・環境事業主査の福原吉孝ワイズは3月27~29日開催の「きらりと輝くアート展」の準備・進捗状況(会場の選定予約から始まり4回の検討会と仕上げの第5回検討会・予算の作成や搬入の手順等々)を報告した。芦屋クラブからは田辺会長・上野ワイズ・柏原ワイズが積極的に大きな役割を担った。



田辺会長は7月から2月迄の第1例会、今後の例会予定を報告した。特記事項として、2月の留学生交流会が18回目の継続事業であり、コロナ禍以来のポトラックで留学生を歓迎したと話された。

☆「第一号議案」で六甲部部則の改定について文言の統一、条文の表現等、部則検討委員会で審議するとの結論となった。 桑野友子

『 聖句 読み説き 』

今月の聖句の舞台ベタニアは、エルサレムの東、約3キロにある小村で、イエスが病を治したラザロと一緒にいたマルタとマリアの家です。ヨハネ書ではラザロの家と記されていますが、マルコやマタイでは思い皮膚病のひとシモンであり、香油のマリアは、マルコやマタイでは一人の女、また文句を言ってなじるユダはマタイでは「弟子達」、マルコは「そこにいた人達」と書かれています。又、マリアが自分の髪でイエスの足を拭ったことは他には書かれていません。そもそもおもしろい皮膚病がある家で食事をする事は当時の習慣では考えられません。しかしイエスが食事をする場所に一人の女が突然現れ、持って来た高価な壺を壊して香油をイエスに注ぎかけた事は大体共通しています。

古来、イエスの生きた時代においても食事の席は大切な意味と共にその場は彼らの社会のものでした。

しかし、参列していた弟子のユダは「何故この香油を 300 デナリオンで売って貧しい人に施さなかったのか。」(5節)と怒り、女の行為を非難します。それはその食事に招かれた人々の共通する非難なのです。

これは私達にもシンクロします。自分が最も大切にしていた「壺」と言う概念を壊してまでもイエスに注いだ女の信仰に眼を留めず、自分達だけの「安定」と云う社会を壊そうとする者への無理解と非難です。計算・損得を計り、自分達の心の何処かで自己の耳に心地よい事のみを要求しながら、そしてそれのみを受け入れながら「安定」と云う食卓を変えようとする者への非難と無理解を叫んでいないだろうかと今日のエピソードは私達に語っています。

権 甲植

3月第2例会議事録

日時： 3月 25 日(水) 18:30～20:00

場所： 芦屋市民センター205号室

参加者： 田辺会長・上野・柏原・桑野・堤・福原・浜瀬  
坂東(各ワイズ) & 井島裕介担当主事

議事・報告

第1例会予定

5月20日(水) スピーチ： 加茂周治ワイズ(神戸西クラブ)

6月17日(水) 1年を振り返り、次期への活動を考える

その他

- 会計報告 ・・2月度 承認
- きらり輝くアート展 実行委員会報告  
実行委員会第5回は、14日(土)の10時～12時  
26日(木)～29日(日)原田の森で開催  
26日(木)・29日(日)搬入・搬出は実行委員と堤ワイズ  
29日(日)芦屋C受付に桑野・浜瀬・坂東各ワイズ3名
- ロスター 4月15日(水)までに(株)三浦印刷所へ返送
- Yサ・ユース事業 2026～2027年度西日本区はYMCA サービス事業とユース事業を分けて其々を強化する
- 西日本区大会(奈良) 6月13日(土)  
なら100年会館(大会)、ホテル日航奈良(懇親会)  
参加者： 井島・上野・柏原・桑野・田辺・浜瀬・舟橋・坂東、全員土曜日のみ参加

書記 柏原佳子

■2026年3月31日 神戸 YMCA 余島キャンプ場  
余島野外活動センター閉場にあたり

神戸 YMCA 余島キャンプ場、および余島野外活動センターは、「2026年3月31日」をもって閉場しました。1950年に産声を上げて、神様の御手の中で75年という長きにわたり、歩んでこれたのは小豆島土庄町の地で、地域の皆様の多大なるご支援とご協力をいただき開設され、若き青春時代をキャンパーと共に歩んでくださったリーダーの皆さん、リーダーOB・OGの皆さん、小豆島の皆さん、YMCAの会員の皆さん、



遠く海外から訪れてきてくださった皆さん、ワイズメンズクラブを初め、ご支援いただいた企業、関係団体、職員、旧職員、役員の皆様の他、数えきれない方々に

支えられてきた賜物でございます。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。YMCAという民間非営利団体が周囲2.2kmの大きな島をお借りして、戦後の荒廃した社会のなかで「キャンプ」「野外活動」という手段を用いて、子どもと若者の育成を始めることは、とてつもない信仰に裏打ちされた覚悟があったものと想像します。時代により、その目的や手段は変化していくものですが、変わらぬものは、余島は「人と出あい、神と交わり、愛の火の燃えるところ」であり続けたことであつたと思います。75年間続けることができましたのは、ひとえに活動を通じていただいた温かいお言葉

や、至らぬ点をご支援くださった皆様の優しさ、そして赦しと愛を持って接し続けてくださった方々の存在であります。改めて深く感謝申し上げます。



2025年10月からの撤収作業のおりにも、たくさんの皆様にご尽力を賜りました。様々な思いを胸に秘めながらの作業は、心身ともに疲労困憊の作業であつたことと思います。感謝一杯です。また撤退をすることが決まってなお、YMCA 余島キャンプ場を愛し、助けて下さった小豆島地域の皆さん、リーダーの皆さんはじめ、応援していただいた皆様にも心より御礼申し上げます。これから、少し期間をおいて、75年間の振り返りをしていくこととなりますが、まずは、ご支援いただいた皆さまに感謝を申し上げます。 担当主事 井島裕介

編集後記：4月は芦屋川さくら祭りを第1例会とし、殆ど全員参加で朝8時から夕方5時まで頑張りました。六甲部の全クラブから応援参加、交流を楽しみました。それが理由ではないのですが、プリテン発行が随分と遅くなりました。4月5日は桜が満開でした。 桑野友子